

SBDL Autumn Round 2022

2022年度 第4回 埼玉県バスケットボール デベロップメントリーグ U15オータムラウンド 実施要項

- 1 大会名称 大会呼称 ▶ SBDL オータムラウンド2022 (英語表記: SBDL Autumn Round 2022)
 正式名称 ▶ 2022年度 第4回 埼玉県バスケットボールデベロップメントリーグ
 U15オータムラウンド (英語表記: SBDL U15 Autumn Round)
- 2 主催 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会
- 3 主管 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 U15カテゴリー部会
- 4 目的
 - (1) JBA登録チームに、一定の公式戦試合数を確保し長期的な育成を図る
 - (2) 拮抗した対戦を増やし、選手・指導者の成長を促す
 - (3) DNP (Do Not Player: 補欠選手) ゼロを目指し、すべての選手がバスケットボールの公式戦を楽しめる環境の構築
- 5 事業概要
 - (1) 目的の達成のため日本全国で計画・実施している事業
 - (2) 単なるリーグ戦制度導入でなく、「リーグ戦文化」をバスケットボール界で共有し、育成世代の活性化を目指すための事業
 - (3) 【リーグ戦文化】とは、事業の目的である①拮抗した対戦を増やす②年間の一定試合数を確保するという2点に加えて、以下のA~Cに留意し実践することで、トーナメントでは得られなかった選手や指導者の成長を創り出していくことである。さらに、それは繰り返しのなかで醸成するものである。
 - A 【A】 M-T-M (マッチトレーニングマッチ)
 試合の勝敗により次の試合予定が決まったり無くなったりするのではなく、事前に計画的に予定されている複数の試合に向けて十分な準備(練習)時間を確保した上で毎試合取り組むことにより、選手と指導者の成長を促す。また、敗戦した試合の課題を改善して取り組む次の機会(試合)が予定されているということが重要であり、チームの成熟につながる要素である。
 「トーナメントの決勝リーグ≠M-T-M」
 「M-T-Mを実施≒リーグ戦文化醸成=選手・指導者・チームの成熟」
 - B 【B】 長期リーグスケジュール
 【A】の実現のために、リーグ期間を長く設けることを推奨する。これにより既存の競技会とリーグ戦期間が重なる時期についてはリーグ戦を中断し、その期間にトーナメントを実施しトーナメント敗退チームからリーグを再開していくことで日常に試合があるリーグ戦文化の構築を目指す。
 「短期間でリーグ戦を実施≠リーグ戦文化醸成」
 「長期間でリーグ戦を実施≒リーグ戦文化醸成=選手・指導者・チームの成熟」
 - C 【C】 シーズン制
 【A】【B】の実現のためにシーズン制を推奨する。年間競技カレンダーにおいて、長期リーグスケジュールの間にトーナメントスケジュールを適切に設置すると同時に、試合を設定しないオフ期間を設置する。これにより、選手の「個を高める」「自分と向き合う」「ゲームに向けた準備」の時間の確保、指導者の「指導を見直す」「チームビルディングを見直す」「自身の研鑽」の時間の確保へつながる環境整備となる

- 6 協賛 シューティングスターズ、Nスクリーン、ミカサ、モルテン、
- 7 期日 2022年9月3日～11月30日（3カ月間：マッチデー27日間）
 ・ 9月：3土.4日.10土.11日.17土.18日.19月祝.23金祝.24土.25日
 ・ 10月：1土.2日.8土.9日.10月祝.16土.17日.22土.23日
 ・ 11月：3木.5土.6日.19土.20日.23水祝.26土.27日.
 (1) 上記の期日をマッチデーとする
 (2) 11月30日（水）までに終了すること
 (3) マッチデーを中心に、各グループで計画を立て実施する
- 8 開催会場 埼玉県内各地（参加チームは必ず会場提供すること）
- 9 大会方式
 (1) Pリーグ（県） = 1グループ最大8チームまで総当たりのリーグ戦
 (2) Lリーグ（地区リーグ） = 1グループ6～8チームまで総当たりのリーグ戦
- 10 表彰 すべてのリーグ（Pリーグ・Lリーグ）において優勝チームを表彰する
- 11 登録規定
 (1) 2022年度において、都道府県バスケットボール協会を経て、公益財団法人日本バスケットボール協会U15カテゴリーに登録されたチームおよび競技者であること
 (2) 選手・コーチはスポーツ安全保険に加入しなければならない
 （スポーツ安全保険の加入を証明できる資料をリーグ戦運営委員に提出）
- 12 選手参加資格
 (1) 選手の年齢は、2007年(平成19年)4月2日から2012年(平成24年)4月1日までに生まれた者
 (2) 選手は、**2022年8月31日までにJBAに登録（移籍・追加登録含む）されていること**
 (3) 移籍については、所属都道府県協会へ移籍申請書を提出し、受理されていること
 (4) U15クラブチーム登録した11歳以上の選手は、U15リーグに出場することができる（U12全国大会および予選大会には出場できない）
 (5) 2010年（平成22年）4月2日から2012年（平成24年）4月1日に生まれた者を選手として大会エントリーする場合は、1チームあたり2名まで
 (6) 外国籍選手（JBA基本規程に基づく）の大会エントリーは1チームあたり2名まで
 (7) 就学しているが年齢が上の者の場合（中学3年生だが16歳などの場合）は、本リーグ戦に参加することができる
- 13 指導者参加資格
 (1) コーチライセンス
 A ベンチで指揮を執るコーチはJBA公認E級コーチ以上を保有していること
 B ベンチで指揮を執るコーチは、試合前、テーブルオフィシャルズにてスコアシートにサインする際、必ずJBA公認コーチ登録証を提示すること
 C **試合中はJBA公認コーチ登録証を首から下げる**こと
 (2) 遵守事項
 A 暴力根絶宣言を行い、行動規範を遵守する
 B 行動規範には暴言暴力のほか、不適切な指導、安全義務違反、リクルート、金品の贈与および受理等が含まれる
 C 特に重大な過失を伴う重い事故が生じた場合、保険だけでは対応できないことがあること、指導者個人が訴訟対象となることを認知しておくこと。

- (3) チーム責任者
 A 年齢が2022年4月1日時点で20歳以上の者で、チームを代表して対外的な窓口となり、参加にかかる手続き等ができること
 B チームに帯同し、チームの最終責任者として活動できる者であること

14 大会エントリー資格

- (1) JBA に加盟しているチームおよび登録された競技者であること
 (2) 参加チームの所属選手でありJBA 発行の競技者登録証を所持していること
 (3) 単独チームエントリーの場合、1チーム最低人数は5名
 (4) 複数ユニットエントリーの場合、ケガや疾病による棄権を防ぐため各チーム最低人数は7名
 (5) 複数ユニットエントリーの2番目のチーム名は(チーム名)Bとする
 (6) 選手以外のエントリーは、スタッフ4名以内(コーチ、アシスタントコーチ、チーム責任者、マネージャー等)とする
 (7) チームが選手の安全管理上の理由でトレーナーのフロアでの活動を希望する場合、所定の「トレーナー登録申請書」を第1節に大会運営委員に提出する
 (8) インテグリティを遵守し、エントリー条件を満たしているチームが参加資格を有する
 (9) 会場、審判、コーチライセンスなどを準備できないチームは参加資格を失う
 (10) 以下リーグ戦のチームエントリー条件となる(参加チームは条件を必ず満たすこと)

| リーグ戦 | ユニフォーム | コーチライセンス | レフリーライセンス | 施設 |
|------------|---------------------|---------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 県 1・2部 | リバーシブル 不可 | E級ライセンス以上の保持者が指揮を執る | 毎節C級ライセンス以上の審判員を帯同させる | 大会期間中に会場を 1日以上提供 することができる |
| 県 3部 | リバーシブル 不可 | E級ライセンス以上の保持者が指揮を執る | 毎節E級ライセンス以上の審判員を帯同させる | 大会期間中に会場を 1日以上提供 することができる |
| 地区 4・5部 | リバーシブル 可 | E級ライセンス以上の保持者が指揮を執る | 毎節E級ライセンス以上の審判員を帯同させる | 大会期間中に会場を 1日以上提供 することができる |
| 地区 6部 | リバーシブル 可 | E級ライセンス以上の保持者が指揮を執る | 毎節E級ライセンス以上の審判員を帯同させる | 大会期間中に会場を 1日以上提供 することができる |

15 大会エントリー期日/エントリー方法

- (1) 【エントリー期日】2022年7月5日～7月23日
 (2) 【エントリー方法】以下2つ作業でエントリー完了となる
 A TEAM JBAの「大会申込」から「U15リーグ戦オータムラウンド」を検索し、希望リーグにエントリーする
 B プログラムデータをU15カテゴリー部会HPからダウンロードし**TEAM JBAでのエントリーの際に必ず添付**する
 C 選手エントリーの期日は、「12選手参加資格(2)」のとおりとする。

16 施設入場者制限について

- (1) 観客の入場については、施設管理者の基準に最優先に従うものとする
- (2) 施設管理者が入場を認めている場合
 - A 入場者は、必ずチームで管理し、施設来場者名簿に記載されたもののみ可とする
 - B 基本的には、選手とその家族、下級生などチーム関係者を入場の対象とし、各チーム50名程度とするが、入場人数の最大数は施設基準を最優先として考える
- (3) 施設管理者が観客の入場を認めていない場合
 - A 無観客試合の際は、運営上必要な人員として各チームサポートスタッフ最大3名の入場を認める
 - B サポートスタッフは、選手やベンチスタッフと同様に「施設来場者健康状態記録表」に氏名等の項目を記載し、会場責任者が明確に把握する
 - C 【サポートスタッフの役割】
 - ・選手に健康上のトラブル等があった場合の対応ができる大人とする
 - ・写真/動画の撮影を行うこともできるが、SNS等への投稿は不可
 - ・ベンチエリアでの指示、指導を行うことはできない

17 参加料

- (1) 1チーム3000円
- (2) TEAM JBAより参加費を支払う

18 提出物

- (1) リーグ戦第1節では、以下の3点（必要に応じて4点）を各リーグの運営委員に提出する。
 - ※ 運営委員は、提出された書類の整合性をチェック後、チームに返却する。
 （出場全選手およびチームが登録・保険加入しており同意書を提出しているか）
 - A 「Team JBA 登録一覧表名簿」
 - B 「スポーツ安全保険団体会員名簿」
 - C 「参加同意書」
 - D 複数のユニットでリーグ戦に参加する場合は、「ユニットエントリーシート」
 - ・登録一覧表は、登録者全員の氏名が記載されてしまっているため、このシートが必要
 - ・用紙は県協会HPよりダウンロード。リーグ開催期間中の新規エントリーは認めない。
- (2) 毎試合、各リーグの運営委員に提出する。
 - ※ 運営委員は、提出書類をチェック後（体調不良者の有無）、原則チームに返却する。
 - A 「施設来場者健康状態記録表」（当日の体温記載）
 - ※ 施設毎の様式がある場合には、所定の書式で提出（返却がない場合もある）

19 グループ代表者会議

- (1) 日時：8/7（日）13:00～17:00
- (2) 会場：パストラル加須 大ホール
 〒347-0006 埼玉県加須市上三俣2255
 駐車場 400台
- (3) 「埼玉県バスケットボール協会U15カテゴリーチーム代表者会議」終了後、リーグ戦参加チーム代表者はグループ毎にグループ代表者会議を行う
- (4) 「埼玉県バスケットボール協会U15カテゴリーチーム代表者会議」は、「2022年度一般社団法人埼玉県バスケットボール協会公認指導者リフレッシュ研修会」を兼ねる
 - A 本研修会を受講した指導者は、リフレッシュポイントが1ポイント付与される
 - B リフレッシュポイント取得希望の指導者は、TEAM JBAを通じて申し込むこと
 （TEAM JBAを通じて申し込みが行われずに代表者会議に出席した場合は、リフレッシュポイントは付与されない）
- (5) 新型コロナウイルスなど感染予防対策が必要とされる場合には、(1)の代わりに、3つの密を避けるために監督会議や代表者会議は事前にオンラインでの開催とする
 - A (2)の場合において、諸事情によりオンライン開催が難しい際は、参加チームへの連絡事項や注意事項をメールで展開する
 - B (2)の場合において、当日に文書で配布するなど大勢の人が一同に会さないように各リーグで工夫して2022年8月31日（水）までに各リーグで実施すること
- (6) **(1) (2) どちらであっても、必ず各チーム1名以上出席すること**
- (7) **遅刻または欠席の場合、大会に参加することはできない**

20 日程調整について

- (1) 日程調整における基本的な考え方
 「4事業概要(3)リーグ戦文化【B】長期リーグスケジュール」の項目に記載されている事業の目的を十分に汲み取り、出来る限り長期リーグスケジュールを組み、その中で子どもたちと共にチームとして向上していける環境づくりに努めること
- A このような目的を達成するため基本的には**4時間単位での日程調整**を推奨
 B 会場提供の負担、帯同審判員の負担の側面からも、**4時間単位での日程調整**を推奨
 C **原則、各チームマッチデーに試合が実施**できるようにする
 D 基本的な**4時間単位**でのスケジュールは、たとえば以下のような組み方が考えられる
 a) 例：4チームが同会場に集まり、2ゲーム実施(1ゲーム、1TO)など
 E ただし、各チームの会場への入場時刻、退場の時刻を明確にし、感染症対策を徹底することで1チームにおいて1日2試合まで試合を行うことは不可ではない
- (2) 日程調整の流れ
 A **各チームは、7月末までに自チームのマッチデー都合・会場確保を集約**しておく
 B 各チームは、U15カテゴリー部会からの**所属グループ決定連絡後、グループ代表者会議の3日前までに、運営委員に都合を提出**する
 C 運営委員は、集まった各チームのマッチデー都合・会場確保状況を集約し印刷。グループ代表者会議にて、各チーム代表者に配付する
 D 各チーム代表者は、グループ代表者会議にて話し合い、試合実施日を調整する
 E **運営委員は、決定した試合日時をグループ代表者会議の10日後までにU15カテゴリー部会に報告**する
 F SBA U15部会は、報告された試合実施日を集約し、8月末までにHPに公開する
- (3) 学校行事・県協会行事が重なった場合、そのチームは該当日を「設定不可日」とし、「マッチデー」としてカウントしない。
 A 設定不可日(学校行事、県協会行事)により選手が5名以上揃わないため「マッチデー」で開催ができない場合は、「マッチデー」以外での実施を認める
 B またこの「設定不可日」の場合は、特別やむを得ない事情とし、日程調整における「不都合」の数としてもカウントしない
- (4) 全チームがマッチデー枠に対する参加可能枠について割合を明確にする(参加割合)
 A マッチデーは、全てAMで一枠、PMで一枠とする(27日間=54枠)
 B 例1：「参加可能枠39 ÷ マッチデー54枠 = 72%」
 C 例2：設定不可日枠(マッチデーとしてカウントしない)14 → 「54 - 14 = 40」
 「参加可能枠28 ÷ マッチデー40枠 = 70%」
 D 例3：設定不可日枠(マッチデーとしてカウントしない)22 → 「54 - 22 = 32」
 「参加可能枠18 ÷ マッチデー32枠 = 56%」
- (5) お互いになんとしても都合が合わず、そもそも計画すら立てられない場合、上記(2)の「参加割合」の少ないチームを「不都合」が多いと判断し、「不戦敗」とする
 A **ナイトゲームなど、マッチデー以外の日程であればゲームを組めるという場合は、当該チーム同士で日程を調整し、グループ代表者会議の7日後までに運営委員に決定した試合日時を報告完了できれば、試合を認める**
 B ただし、該当チーム同士での試合を実施する場合には、必ず対戦チーム同士以外の、**リーグ内のチーム代表者(第三者)**が立ち会うこととする
 a) **第三者が立ち会えない場合には、いかなる理由があっても公式戦と認めない**
 b) 練習試合扱いとして対戦した場合、公式戦でないためスコアは不戦敗となる
 C 当該チーム同士での話し合いの際、相手チームの都合状況に対して、相手を非難するような言動が確認された場合は、いかなる理由があっても上位リーグへの参加権利を有しないと判断する(他者の都合に対して言及することは許されない)
 D 全チームに事情があるため、提出された都合の中で、上記レギュレーションに則りながら、前向きな話し合いのもとで日程調整を進めていくこと
 E 日程の変更に伴い、元のスケジュールに生じた穴については、「不都合」の生じたチームが会場・審判等の手配を主導して行い、当初定められた日程までに変更日程での開催準備を完了しなければならない

- (6) 試合キャンセル
 A 決定した日程に対し、不都合が生じ、変更またはキャンセルを要する場合
 a) **15日以上前に変更** → **対戦相手チームの都合がつかば変更を認める**
 b) 15日以上前に変更 → 対戦相手チームの都合がNGの場合は不戦敗
 c) 14日前～当日に変更 → 20-0不戦敗扱い (20-0勝ち点2-1)
 (1) この際、該当チーム同士の話し合いにより選手の機会提供のために別日程で実施した場合でも、試合結果の扱いは不戦敗扱いとなる
- (7) 没収
 A 急な体調不良・災害・事故など正当な理由なく、予定されたゲームに現れなかったり、ゲームの終了前にコートから立ち去ったりしたチームは没収による負けとなり、勝ち点は0ポイントとなる
 B チームが2回目の没収となった場合、このチームの対戦結果は全て無効になる
 C その他、競技規則に則る
- (8) 新型コロナウイルスなどを含め体調不良など、学校行事以外の理由で日程が組めない場合は、「不都合」としてカウントする
 A この「不都合」により設定日のキャンセルが生じた場合、チームは不戦敗とする

21 順位決定について

- (1) (公財)日本バスケットボール協会競技規則に準ずる
 (2) リーグの順位は勝敗記録によって決定されなければならない (勝ち点は以下の通り)
 A 各ゲームに勝ったチームに勝ち点2
 B 各ゲームに負けたチームに勝ち点1 (不戦敗、ゲームの途中終了を含む)
 C 各ゲームの没収によって負けたチームに勝ち点0
 (3) 2チームだけ勝ち点で並んだ場合、当該チーム間直接対決勝利チームを上位とする
 (4) 3チーム以上が勝ち点で並んだ場合、当該チーム間で行われた試合から勝ち点を算出し、勝ち点の多いチームを上位とする
 A 勝敗記録が同じ場合、次の順序で更なる基準が適用される
 a) 当該チームの対戦での得失点差の大きい方
 b) 当該チームの対戦での得失点数の大きい方
 c) グループ内の前ゲームでの得失点差の大きい方
 d) グループ内の全ゲームでの得点数の大きい方
 B これらの基準で順位が決定できない場合は、抽選によって最終順位を決定する
 (5) 没収試合、不戦敗の扱い
 A 「20 日程調整について」の項目に従い、不戦敗の場合は20-0の処理となる
 a) 不戦敗においては、「負け」のため、勝ち点1となる
 B 競技規則に従い、没収試合となるケースでは「スコア20-0勝ち点2-0」とする
 (6) 競技規則の「例」を見ても方法がわからない場合、U15カテゴリー部会へ相談する

● 順位算出の例

| | | | |
|--------|----------|--------|----------|
| A vs B | 100 - 55 | B vs C | 100 - 95 |
| A vs C | 90 - 85 | B vs D | 80 - 75 |
| A vs D | 75 - 80 | C vs D | 60 - 55 |

| チーム | 試合数 | 勝ち数 | 負け数 | 勝ち点 | 得失点 | 得失点差 |
|-----|-----|-----|-----|-----|---------|------|
| A | 3 | 2 | 1 | 5 | 265:220 | +45 |
| B | 3 | 2 | 1 | 5 | 235:270 | -35 |
| C | 3 | 1 | 2 | 4 | 240:245 | -5 |
| D | 3 | 1 | 2 | 4 | 210:215 | -5 |

- 従って、1位A (Bに勝利しているため)
 2位B
 3位C (Dに勝利しているため)
 4位D

22 リーグ編成について

- (1) リーグ編成は、全チームエントリー終了後、U15カテゴリー部会によって決定される
- A 本リーグ戦事業では、上位リーグに在籍する組織（指導者・選手・関係スタッフ）は、コート上でもコート外においても、その立ち居振る舞いについて全県の見本となる存在であることが求められる。これは、2018年リーグ戦事業発足当初より大切にしている理念である。
 - B 県内すべてのチームから愛され応援されるチームが、上位リーグに所属する権利を有する
 - C リーグ運営において、他チームとのトラブルや関係者からの非難が相次ぐようなことがある場合は、上位リーグに在籍する権利は有さない。
 - D この理念は、現在と未来の選手のために固く貫かれるべきものであり、決して揺るがない。たとえ競技結果が優秀であっても、本リーグ事業における所属リーグ編成においては、競技結果はあくまでも第5段階の参考資料である。
- (2) R（地域）リーグにおいては、参加チーム数や前回リーグの実情など様々な事情を考慮し、グループリーグに聞き取りを行いながら、実態に合わせて柔軟に編成を行う（別地域リーグへの移動の相談・グループ合同開催など）
- (3) P（県）リーグ1部・2部におけるリーグ編成は、以下の順で参考資料を取り扱う（2018年リーグ戦事業発足当初より大切にしている理念）
- A 組織（指導者・選手・関係スタッフ）は、コート上でもコート外においても、その立ち居振る舞いについて全県の見本となる存在であるか（県内チームから尊敬され、愛され、応援されるチームであるといえるか）
 - B 組織（指導者・選手・スタッフ等）は、リーグ戦事業の運営においてコート内外においてトラブルがあったり、県内のバスケットボールファミリーから非難されるような言動があったりする等、他者に嫌な思いをさせたりするようなインテグリティを欠く言動はないか、暴力根絶宣言を行い、行動規範を遵守できているか
 - a) 行動規範には暴言暴力のほか、不適切な指導、安全義務違反、リクルート、金品の贈与および受理等が含まれる。また、特に重大な過失を伴う重い事故が生じた場合、保険だけでは対応できないことがあること、指導者個人が訴訟対象となることを認知しておくこと。
 - b) 指導者だけでなく選手や保護者を含めチーム全体にインテグリティの重要性を指導できる組織体制を構築できているかは、競技力だけでなく育成世代の子どもを預かるスポーツ環境整備において非常に重要な点
 - C 長期育成型の組織であるか（3年以上の持続した活動を目安とする。移籍によってその年に有望選手を集めたチームなどは長期育成ではない）
 - D 選手をよりよく育成するための環境を構築する組織力があるか。指導者のライセンス保有、ルールを遵守できる選手育成のための帯同審判員保有、チーム内の指導者数と選手数の比率、安定した練習会場の確保状況、AEDや氷など安全な練習環境の確保状況、など。これまで中学校組織が主体であった本県では、安心・安全な環境が確保され、チェック体制も十分であった。今後、クラブチームが増えていく上で、こういった安心・安全な環境を確保しているチームが当たり前になっていくこと、そういうチームが上位リーグに在籍することが求められる。
 （JBA全国U 15選手権でも本項目に該当する推薦枠が設置されており本県からJBAによる推薦チームとして全国大会へ出場した事もある）
 - E Dまでで協議した結果、優劣がつかない場合、前回リーグ成績を参考資料とする

23 リーグ戦成績の影響について

- (1) Rリーグの成績
 - A 表彰をもって完結し、その後の競技会に直接的に影響を与えることはない
 - B ただし、チームが上位リーグへの所属を希望した場合、当該チームの成績は、編成の参考資料とする
- (2) Pリーグの成績
 - A 2022 U15Autumn round (2022年9月開催)の成績は、
2023 U14Winter round (2022年1月開催)所属リーグ編成の参考資料となる
 - B 2023 U14Winter round (2023年1月開催)の成績は、
2023 U15Autumn round (2023年9月開催)所属リーグ編成の参考資料となる
 - C 昇格・降格については、「21リーグ編成について」に記載の通り、成績は第5段階目の参考資料であることを前提とし、以下の通り確認する
 - a) 成績以前に降格の対象となる事案がある場合これを優先するため、昇格および降格については全てのチームが対象となる
 - b) 成績以外にリーグ編成にあたって参考資料がない場合、以下の通りとする
 - (1) 1部の下位2チームは降格の対象となる
 - (2) 2部の上位1チームは昇格の対象となる
 - (3) 2部の下位2チームは降格の対象となる
 - (4) 3部の上位1チームは昇格の対象となる
 - D **所属リーグ編成は、「21所属リーグ編成について(1)」のとおり、全チームがリーグ戦エントリー終了後、U15カテゴリー部会によって決定される。**よって、リーグ戦終了(順位決定)後に自動的にリーグ編成が決まることはない
 - E **U14Autumn roundからU15Winter roundの間は、入れ替え戦を実施する**
 - a) 以下、 α ・ β およびW・X・Y・ZはU15部会責任抽選で決定する
 - (1) 2部A1位チームvs1部下位チーム「 α 」
 - (2) 2部B1位チームvs1部下位チーム「 β 」
 - (3) 3部A1位チームvs2部A下位チーム「W」
 - (4) 3部B1位チームvs2部A下位チーム「X」
 - (5) 3部C1位チームvs2部B下位チーム「Y」
 - (6) 3部D1位チームvs2部B下位チーム「Z」
 - b) 入れ替え戦実施時期については、U14リーグ戦要綱にて展開する
 - F U15Autumn roundからU14Winter roundの間は、入れ替え戦を実施しない
 - G **U14Winter roundの成績およびEの入れ替え戦の成績を、トップトーナメント(U15春季大会)のシード枠権利に反映させる。ただし、あくまでも権利を有するのであって、決定ではない。**リーグ戦編成時と同様の手順で、成績以外の面で権利を反映させるに値しないとU15マネジメント部会が判断する場合がある。

24 競技規則等

- (1) (公財)日本バスケットボール協会競技規則に準ずる。
 - A JBAが提唱するマンツーマンディフェンスの基準規則に準ずる。
 - B 第1試合のTOは、原則第3試合のチームが行う。トーナメント表の若い番号のチームがTOを、後のチームが得点・モップ担当をする。
- (2) エントリー変更
 - A 次の試合のチームは、試合開始15分前までに、スコアシートにコーチ、Aコーチ、選手の氏名を記入する。これをもってベンチメンバーの最終登録とし、以後の変更を認めない。
- (3) 全ての試合でマンツーマンコミッショナーを配置する
 - A 帯同審判同様に各チーム1名担当者を用意する(20歳以上の大人であること)
 - B 各チームは、チーム内にマンツーマンディフェンス関連資料を配布し、皆で理解を深めておくこと。「マンツーマンディフェンスの基準規則」「マンツーマン推進リーフレット」「なぜマンツーマンが必要か?」第3版」「マンツーマンコミッショナーチェック表/報告書」http://www.japanbasketball.jp/players_developmentより

25 ベンチ ベンチは番号の若いチームがTO席に向かって右側とする。

26 ユニフォーム

- (1) ユニフォームは、2020年4月1日時点の公益財団法人日本バスケットボール協会ユニフォーム規則による。
- (2) スポンサー名を入れる場合は、名称や図柄等について未成年が着用するにふさわしいものとし、その可否は事前にSBA U 15カテゴリー部会へ提出し、許可を得ること。
- (3) なお、Bユース所属のチームについてはB.LEAGUEのユニフォーム要項に準ずる。
- (4) 各チームは濃色・淡色の各ユニフォームを用意し、濃淡同番号とする。
- (5) その他、身につけるものは競技規則に準ずる。
- (6) 原則として組合せ番号が若いチームを淡色（白色）とするが、2回戦以降については、対戦する両チームの話し合いの上、変更しても良い。その際、両チーム淡色は不可とし、濃色の際は同系色以外の着用を認めるものとし、試合日前日までにU 15カテゴリー部会に申し出て許可を得ることとする。
- (7) 外国籍選手（JBA基本規程に基づく）の出場はコート上5名のうち1名以内とする。

27 試合の進行について

- (1) 試合ごとに人の入れ替えを行う
- (2) ハーフタイムは、試合をしている当該チームがコートを使用する
- (3) 前のチームが消毒作業の後、退場完了後、次のチームが入場する
- (4) スコアシートは試合開始15分前までに記入をする（ベンチメンバー最終登録）
- (5) 試合は以下の項目に留意し、進行をする
 - A チームの共有物は使用しない 例) ボトル、ジャグ、ベンチタオル
 - B ベンチでは、熱中症に十分注意し、できる限りマスクを着用する
 - C 各自、座る場所を固定し、自分の場所以外に座らない
 - D ベンチでの応援は、拍手を主とし、大きな声は極力控える
 - E コーチは、マスクを着用する
 - F ピリオド間のベンチでは広く間隔をとり、密を避ける
 - G TO、モップ係、得点板メンバー以外は試合終了後すぐに体育館から退出する
 - H 試合終了後、試合をしたチームは各チームで用意したアルコール（70%以上のもの）を使用して消毒作業をして、速やかに会場を出る
 - I その後、手洗い・消毒を必ず実施する

28 感染症対策

- (1) JBA各種ガイドラインに則り、大会を運営する
- (2) チーム責任者は、以下のURLから「JBAバスケットボール活動再開に向けたガイドライン」をダウンロードし、選手並びにチーム関係者に配布するとともに、感染症対策について対応を徹底する。
 - A 【「JBA バスケットボール事業・活動実施ガイドライン 第5版」概要】
 (http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/JBA_Guideline_5th_20220512.pdf)
- (3) チーム責任者は、リーグ戦期間中の【SBA U15健康チェックシート】をチーム内で保管する
 - A 後日**陽性者が発生し会場から提出が求められる場合は、必ず提出できるように準備**する
 - a) 【SBA U15健康チェックシート】は選手および関係スタッフ全員分準備しておく
 - B 一般社団法人 埼玉県バスケットボール協会ホームページからダウンロード
 (<http://saitama.japanbasketball.jp/>)
- (4) 感染症予防対策のため、密を避けるためにナイトゲームを計画・実施する場合、該当チーム同士のTO運営の場合の特例措置として以下のとおりとする。
 - A TOチームは別枠として会場に入場することを認める
 - B Aチームより4名（テーブル）Bチームより4名（スコア、モップ）
 - C チームの人数が足りない場合、外部CチームよりTOチーム最大8名の入場可

29 その他

- (1) 個人情報の取り扱いについて
 - A 大会関係者の健康状態の把握来場可否及び必要な連絡のためにのみ利用する
 - B 個人情報保護法の法令において認められる場合を除き、ご本人の同意を得ずに第三者に提供することはない。提出書類に記載されたデータ（画像データ含む）は、主催者が大会運営のため大会プログラムや大会公式サイトなどに使用するほか、大会報道を目的として報道機関に提供することがある
 - C その他、個人情報および肖像権の取り扱いについては別途定める
- (2) フロアレベルにおいての観戦について
 - A いかなる理由があっても**フロアレベルで三脚を使用した撮影は認めない**
 - B いかなる理由があっても、**フロアレベルに未就学児の入場は認めない**
- (3) カメラ・ビデオでの撮影について
 - A 会場責任者から許可された場所からのみ、カメラ・ビデオでの撮影は可
 - B 撮影したい方は、原則、2階席またはギャラリーで撮影してください
 - C 2階席またはギャラリーが無い会場においては、会場責任者に相談し、安全上問題ないことを条件に許可を得た場合にのみフロアレベルでの撮影可（ただし、安全管理上の理由から三脚の使用は認めない）
 - D **いかなる理由があってもフラッシュの利用は認めない**
- (4) 保険加入
 - A 大会会場への往復移動中ならびに大会期間中に大会会場での負傷に備え、必ず保険へ加入すること（保険に加入していないコーチ・選手は大会に参加できない）
 - B 各チームで加入手続きと確認をしておくこと
- (5) 会場内は、互いに譲り合うとともに荷物の管理をする
- (6) ゴミは、各自・各チームで必ず持ち帰る
- (7) 新型コロナウイルス感染症等によって、レギュレーション、開催期間、順位その他に関して埼玉県バスケットボール協会の判断において変更されることがある

30 タイムテーブルの例

| 時間 | 行動 |
|---------------|---|
| 8:00 (12:00) | 開館・会場準備 |
| | 第1試合 アップ開始 |
| | 第1試合 スコアシート記入（試合開始15分前までに記入する） |
| | 第1試合のTOメンバー準備（第2試合チーム） |
| 9:00 (13:00) | 第1試合 開始 |
| (ハーフタイム) | 第2試合 スコアシート記入（試合開始15分前までに記入する） ハーフタイムは、試合をしている当該チームがコートを使用 |
| 10:30 (14:30) | 第1試合終了・ベンチおよびTOテーブル消毒 |
| | 第1試合チームが退場してから第2試合チーム入場 |
| | 第2試合 コートアップ開始（20分間のアップ時間を確保） |
| 11:00 (15:00) | 第2試合 開始 |
| 12:30 (16:30) | 第2試合終了・ベンチおよびTOテーブル消毒 |
| 13:00 (17:00) | 完全撤収 |

- ※ 時間は目安である（会場の実態に合わせて調整）
- ※ () 内の時間は、PM実施の場合のタイムテーブルの例
- ※ 上記の例で、8:00～17:00まで通してAM・PM各4チームずつ実施することも考えられる
- ※ TO・モップ・得点板の担当に関して
 - 第1試合の第2試合の淡色チームが担当
 - 第2試合は第1試合の勝ちチームが担当
 - 第3試合は第2試合の濃色チームが担当
 - 第4試合は第3試合の勝ちチームが担当